

11月12日 創世記12章1～9節

説教題：「約束の始まり」

今日の聖書箇所には、遙か昔、イスラエルの民の始まりとしての最初の族長であるアブラハムとの間に交わされた、「神様からの約束」が記されています。「あなたは生まれ故郷 父の家を離れて わたしが示す地に行きなさい」という神様からの命令を受けて、「わたしはあなたを大いなる国民にし あなたを祝福し、あなたの名を高める 祝福の源となるように。あなたを祝福する人をわたしは祝福し あなたを呪う者をわたしは呪う。」と、神様からの約束が語られています。

そして、神様からなされた約束は、イエス様によってさらに大きなものとなります。ヨハネによる福音書8章51～59節には、イエス様によって示されている新しい約束の言葉があります。「はっきり言うておく。わたしの言葉を守るなら、その人は決して死ぬことがない。」と、約束が守られるための条件と、約束を守った際の恵みがそこには示されています。

ただ、彼らユダヤ人たちにとって、「私の名をみだりに唱えてはならない」という十戒の言葉を堂々と破るイエス様の存在は、ゆるすことが出来るものではありませんでした。しかし本当は、その言葉は彼らユダヤ人たちにとっても、大きな「救い」の言葉だったはずです。今日の個所で、神様がアブラハムに対してカナン地方に向かうように命じた時も、モーセに対して「わたしはある」と、「あなたと共にいる」とその名前を告げた時も、ユダヤ地方に何人も王が生まれ、戦いの中で多くの人々が苦しむ時も、そこにイエス様は既にいました。父なる神によって定められた時まで、そしてその時を超えて今に至るまで、イエス様は、私たちと共に歩んでくださる方なのです。そのことを理解できる人とできない人、神様の望みをかなえる人と神様を無視する人、良く生きようとする人と自分の好きなように生きようとする人、そしてイエス様に従ったキリスト者たちとイエス様の言葉を頑なに信じる事が出来なかったユダヤ人たち。その間には、埋めることの出来ない大きな溝があったのです。

私たちは、どちらの道を歩むことが出来るでしょうか。自分が好きなようにこの人生を生きるのか、隣人と共に生き、誰かを笑顔にして、誰かと共に賛美をしながら、音楽を愛しながら生きるのか。私たちには新しくされた約束があります。「行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の御名によってバプテスマを受け、また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます」イエス様によって命じられたその言葉を受けて、信仰によって得る多くの恵みの約束に希望を抱いて、私たちは新しい一歩を踏み出すのです。その、未来への希望を胸に抱きながら、今週一週間の歩みを、これからの歩みを共に進めましょう。

今日の説教箇所：創世記 12 章 1～9 節

- 1:主はアブラムに言われた。「あなたは生まれ故郷／父の家を離れて／わたしが示す地に行きなさい。わたしはあなたを大いなる国民にし／あなたを祝福し、あなたの名を高める／祝福の源となるように。あなたを祝福する人をわたしは祝福し／あなたを呪う者をわたしは呪う。地上の氏族はすべて／あなたによって祝福に入る。」アブラムは、主の言葉に従って旅立った。ロトも共に行った。アブラムは、ハランを出発したとき七十五歳であった。アブラムは妻のサライ、甥のロトを連れ、蓄えた財産をすべて携え、ハランで加わった人々と共にカナン地方へ向かって出発し、カナン地方に入った。アブラムはその地を通り、シケムの聖所、モレの櫨の木まで来た。当時、その地方にはカナン人が住んでいた。主はアブラムに現れて、言われた。「あなたの子孫にこの土地を与える。」アブラムは、彼に現れた主のために、そこに祭壇を築いた。アブラムは、そこからベテルの東の山へ移り、西にベテル、東にアイを望む所に天幕を張って、そこにも主のために祭壇を築き、主の御名を呼んだ。アブラムは更に旅を続け、ネゲブ地方へ移った。